

新庁舎建設に向けて

～緑にかこまれた 市民をむすぶ やさしい低層庁舎～

◆問合せ 庁舎建設推進室庁舎建設推進担当(直通594-5501)



みどりの広場（文化センター側）からのイメージ



新庁舎1階窓口のイメージ

新庁舎建設の進捗状況

現在、新庁舎建設実施設計に基づき、施工者の選定手続きを行っています。

工事期間は、工事着手を10月、新庁舎本体の完成を平成26年9月、駐車場等の周辺整備を平成27年3月までとする計画です。

工事の予定等の詳細については、今後、広報きたもとや市ホームページにてお知らせします。

新庁舎建設事業の推移

新庁舎建設事業は、平成10年度の当初庁舎建設基本計画では、床面積10,000㎡、総工事費約51億8,000万円、本体工事費約41億6,000万円で計画していました。しかし、財政状況等から計画変更の検討を行ってきました。

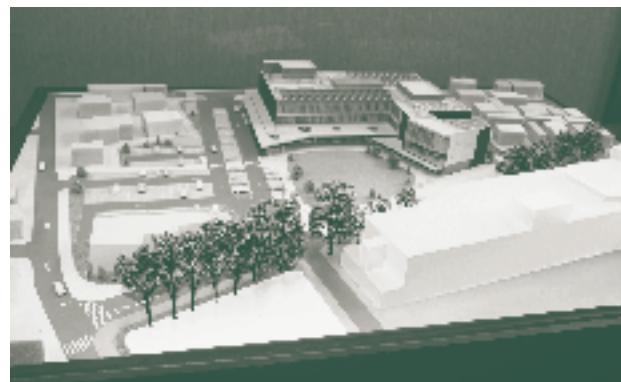
現在の新庁舎建設計画は、平成20年度からの計画の再検討を経て、床面積約9,300㎡、本体工事費を約25億円としています。

新庁舎の規模については、市の規模や職員数等により必要な床面積が異なるため、単純に比較できませんが、職員1人あたりの面積では、近年整備された他市の平均が約34.03㎡、北本市の新庁舎は、職員1人あたり約25.62㎡とコンパクトな計画となっています。

また、本体工事費については、基本計画でのデータと比較すると、平均が1㎡あたり約35万9,000円となっていますが、北本市の新庁舎は、約26万9,000円となっており、経済的で質素な計画となっています。

新庁舎の模型を展示しています

第1庁舎1階ロビーで模型を展示しています。ご来庁の際はぜひご覧ください。



新庁舎計画の見直しを行い事業費を縮減しました。

新庁舎建設事業は、新庁舎建設工事費、備品購入費、移転費等を併せて約37億9,000万円を概算事業費としていました。

しかしながら、市議会や市民の皆さんからの事業費縮減のご意見を踏まえて、事業費の見直しを行い、「総事業費を約31億9,000万円」としました。

主な見直し内容

＊防災倉庫棟建設工事の見直し(約1億1,000万円の縮減)

第4庁舎を当分の間、防災倉庫や備品の倉庫として継続使用します。

＊太陽光発電システム工事の見直し(約1億2,000万円の縮減)

太陽光発電システムは、技術の進歩も早く新たな高効率のシステムが期待できることや、今後新たな補助金の創設も期待できることから、太陽光発電システムの設置は今後の計画とします。

＊新庁舎備品購入費の見直し(約3億1,000万円の縮減)

備品については、既存の備品を利用することを基本として見直します。今後は、市民サービスに必要な窓口カウンター等新たに必要となるものを除き、継続使用する備品等の調査を行うなど、引続き検討を行います。

埋蔵文化財の発掘調査にご理解、ご協力をお願いします。

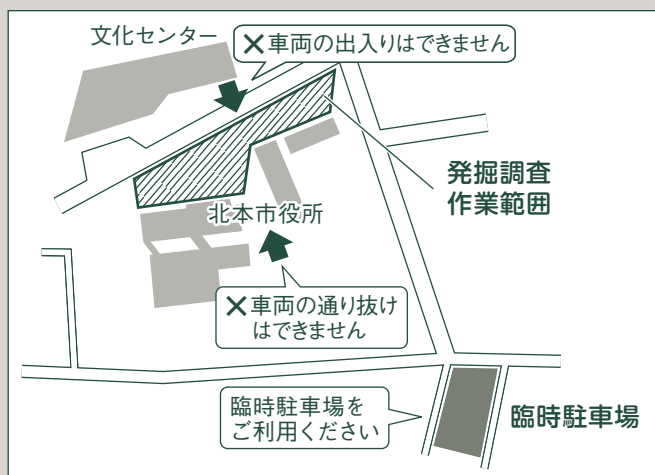
新庁舎建設に伴い、平成24年4月中旬から6月下旬にかけて、市役所南側の駐車場部分を対象に発掘調査を実施しました。

市役所周辺はかつて「三五郎山」と呼ばれ、雑木林に潜んでいた盗賊の名前からつけられたと伝わっています。遺跡の名前はこのことにちなんで「三五郎山遺跡」と呼ばれています。

今回の調査では、旧石器時代(約13,000年前)の石器を作る作業場の跡や縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡が3軒、動物を捕らえるための落とし穴2基、木の実などを貯蔵したと考えられる貯蔵穴1基、壊れた土器をまとめて捨てた穴1基などが見つかりました。

7月中旬からは、北側駐車場部分の発掘調査を行っています。調査期間中は、文化センター側の庁舎出入口からは車両の出入りができません。

ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。



発掘調査作業範囲図

